

## 八綱弁証

表・裏	熱・寒	実・虚	陽・陰
裏	熱	実	陽

## 気血津液弁証

気	血	津液
気滞	血才	

## 臓腑弁証

肝
---

## 証

肝鬱化熱・血才
---------

## 治法

疎肝理気・活血
---------

## 方剤

加味逍遙散+桂枝茯苓丸
-------------

## 病因・病機(メカニズム・ストーリー)

### 大きな流れ

慢性的なストレスによって肝での疎泄機能が低下することで肝での気滯症状を生じる。(肝気鬱結)



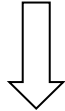
症状出現の直前は仕事が増えたとのことから、化火する。(肝鬱化熱)

・この熱によって熱証が見られるのではないか

⇒火は上昇することから汗が頭から吹き出る。

⇒この熱が胃に侵入することで食欲の亢進がおこる。

肝気横逆は起こっているが便秘、下痢といった症状を来たすまで脾胃は削られていない。



気の巡りが悪くなることで血の巡りも悪化し、胞宮に停滞することで、新血が胞宮に入らずに溢れ出すため、出血が生じる。凝血塊が出るのもこのためである。

⇒これが主訴の不正性器出血の原因

### 方剤に関して

肝気鬱結に効く逍遙散に活血のため、牡丹皮、山梔子を加えた加味逍遙散を用い、さらに活血の効果を強めるため活血化才の基本方剤である桂枝茯苓丸を加えた。